

## 文献

- 佐藤哲彦・寺岡伸悟・野村一夫・池田光穂・佐藤純一(2000)『健康論の誘惑』文化書房博文社.
- 上杉正幸(2002)『健康病:健康社会はわれわれを不幸にする』洋泉社新書 y
- Michael Winkelmann (2009) Culture and Health: Applying Medical Anthropology. Wiley
- 鈴木継美(1982)『生態学的健康観』篠原出版
- 竹山重光(2005)『「健康」の概念化』, 北海道大学文学部哲学倫理学研究室・科学研究費『応用倫理学各分野の基本的諸概念に関する規範倫理学的及びメタ倫理学的研究』報告書

## 素朴に考えると?

- \* 病気や死の対立概念→境界線が引けるか? (cf.)Darwinian Medicine (進化医学)的な考え方では病気も適応の1つの形
- \* お達者, 健やか, 丈夫, 元気, などの違いは?
- \* 厚生労働省調査:現代日本では8割程度の人が「健康とは病気でないこと」「自分はまあ健康」(上杉 2002)→そのわりに健康食品とか健康器具が流行るのはなぜ?

## 語源は?

漢字の「健康」は、「凡ソ人身、内外諸器常景ヲ全フシ、諸力常度ヲ守テ、運営常調ヲ失サルヲ健康トシ、諸器諸力、イズレカ常ニ違フ所有テ、運営常調ヲ失フヲ疾病トス」(出典:緒方洪庵(1835)『遠西原病約論』)が最初。蘭学者緒方洪庵が(同じ頃に高野長英『漢洋内景説』)にも出てくるが、この語の使用についてより自覚的だったのは緒方とされる)、西洋医学的な健康概念に当てるために発明。世間には、福沢諭吉(1874)『学問のすすめ(第四篇)』における、「すべて物を維持するには力の平均なかるべからず。譬えば、人身の如し。これを健康に保たんとするには、飲食なかるべからず、大気光線なかるべからず、寒熱痛痒外より刺衝して内よりこれに応じ、もって一身の働きを調和するなり。今俄にこの外物の刺衝を去り、ただ生力の働くところに任してこれを放頓することあらば、人身の**健康**は一日も保つべからず」や、西周(1875)の論文における「三宝とは何物なるやと云うに、第一に健康、第二に知識、第三に富有の三つのものなり」(西は「健康」に「まめ」というルビを振っている)辺りから。1882年の高等小学修身書『健康は、実に、万事の本にして、この上もなく大切なものとするべし』と書かれ、英語の health に対応する概念としての「健康」が定着(竹山, 2005)。

health の語源は, "heal", "disease", "sickness", "illness" の語源と関連。"heal"は「健康を回復すること, 正しくすること, 悪い状態や不安を取り除くこと, 全体性がある健全であること」で、語源はインドヨーロッパ語の kailo-にあり、全体性, 神聖性, 良い兆しを意味する。"disease"は本来"ease"の逆。"sick"は精神的に良くないことで、インドヨーロッパ語の seug-に根ざし、トラブルがあると悲しいという意味。"ill"は中世英語の ill(e)にあり、悪いこととか、身体あるいは精神の sickness を意味するが元々は悪徳, 悪意, 罪, 災害の意味。health が損なわれたときの対応は"medicine", "cure"がある。"medicine"はラテン語の medicina とインドヨーロッパ語の med-に根ざし、適切な手段をとることを意味。"cure"はインドヨーロッパ語の cūra から、健康を回復する意味。宗教的に精神の充足や魂の癒やしも意味。

## WHO は?

WHO 憲章(1946 署名, 1948 発効)「健康は身体的にも精神的にも社会的にも完全に良好な状態をいい、単に病気がないとか病弱でないということではない」「到達しうる最高の健康水準を享受することは万人の基本的権利であり、人種・宗教・政治的信条・社会経済条件の如何を問わない事項である。それぞれの人間集団が健康であることは、平和と安寧を得る上で不可欠のことがらであり、このためには個人も国もお互いに十分協力しなければならない」

「完全に良好」は理念。到達目標あるいは政策的言明。

- \* アルマ=アタ宣言(1978)でのプライマリヘルスケア(Primary Health Care)についての考え方
- \* オタワ憲章(1986)での健康増進(Health Promotion)についての考え方、とくに Prerequisites for Health (健康の前提条件)
- \* 1998~1999 年 WHO 憲章改訂問題: "dynamic"と"spiritual well-being"を入れるかどうか。経緯は、WHO Executive Board (<http://www.who.int/gb/>)や世界保健総会(World Health Assembly=毎年1度行われるWHOの総会)のドキュメントに詳しい。Executive Board からは反対ゼロで総会に上がったが、総会の予備審議であるコミッティBでは事務局預かり。
- \* 白田寛(大阪医科大学), 玉城英彦(北海道大学)「西洋近代医学が成熟と成長限界を迎えると、病に対して心の問題を含めて全人的なアプローチを行ってきた伝統療法の「癒し」の効果へ関心が集まり、真に効果をもたらすものを選別、評価し、西洋医学と統合し第三の医療ともいわれる統合医療へ再構築しようという動きも起こりつつある」「今回健康定義への追加が提案された spiritual や dynamic という言葉は、イスラム諸国独自の精神文化による健康価値観に基づいていると伺える」
- \* 厚生省(spiritualについて)「WHOの過去の会議などの議論から、健康の確保において、生きている意味あるいは生きがいなどの追求が重要という立場から提起されたもの」(dynamicについて)「健康と疾病は別個のものではなくて連続したもの」(1999年3月19日, 第6回厚生科学審議会総会で金子課長)

## 文化人類学・医療人類学的には? ささまざまな健康の形

文化的多様性(中央アメリカメスチソの"salud", "sano/sana", "alentado"の違い/アメリンドの伝統宗教的健康観「身体, 精神, 魂, 感情のバランスが崩れると病気になる」/トングウェ焼畑農耕民の生態学的健康観……不作, 不猟, 配偶者に巡り会えない, 子宝に恵まれない, 怪我といった不幸の原因の呪医による除去/ソロモン諸島住民がマラリアに罹る危険より日没後野外で涼しい風に当たることを優先していること等)

## 健康と病気の社会的構築

- 集団健診での「病気の早期発見」の意味
- ヘルシズム(健康信仰)
- 成人病→生活習慣病(→社会環境病:公衆衛生的健康概念)
- "Clown Doctor"パッチ・アダムの Gesundheit
- 存在論的-実体論的病気観と生理学的-機能論的病気観(竹山, 2005)

## 前回提出レポートでの質問・要望について

- 母子保健と親子保健はニュアンスが違うのでは? →Yes
- 試験はレジュメから出題? →概ね Yes
- 食糧・水不足で人々が皆健康な生活を送るのは可能?
- PNGの衛生状態は? PNGには何をしに?
- 要望:海外事情の紹介を引き続き希望, 要点がわかる講義を希望, 感銘を受けた本の紹介希望→追々